

第15期

オセロ王座戦

日時

2022年 7月10日 (日)

場所

コミュニティプラザコルソ／浦和コルソホール

タイムテーブル

10:00~10:30	受付
10:30~10:50	開会式
11:00~11:40	1回戦
11:55~12:35	2回戦
12:50~13:40	3回戦
13:40~14:15	昼食
14:15~14:55	4回戦
15:10~15:50	5回戦
16:05~16:45	6回戦
	会場整備
17:00~17:40	決勝
17:50~18:10	表彰

表彰および段位認定

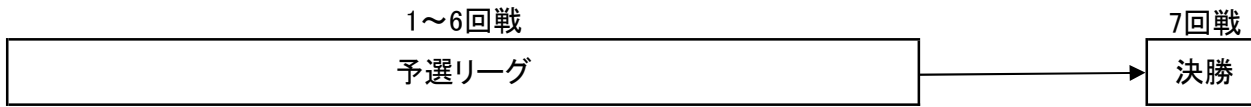
優勝	七段	長谷川五郎賞, 世界大会出場権
準優勝	六段 (*1)	世界大会出場権
3位	六段 (*1)	
4~8位	五段 (*1)	
4勝	四段 (*1)	
3勝	三段 (*1)	
2勝	二段 (*1)	

(*1) 有料にて認定

大会方式

持ち時間 各20分 (時間切れの場合は1手30秒)、予選は引き分けあり、決勝は引き分けなし

予選リーグ7回戦 (ブライツウェル方式) + 決勝戦



- 全選手が6回戦まで予選リーグを行い、決勝進出選手 (上位2選手) および3位以下の順位を決定します。
 - 予選リーグはブライツウェル方式 (世界選手権予選の方式) で行います。
 - 組合せおよび手番はコンピュータが決定します。
 - 順位は以下の優先順位で決定します。
 - 勝数が多い方が上位
 - ブライツウェルポイントが多い方が上位
 - 直前の順位が上位の方が上位 (順位を決定する必要がある場合のみ使用)
 - 5回戦終了時点において上位2名が5戦全勝であり、3位が4勝1敗以下の場合、上位2名は6回戦は試合を行いません。その2名で7回戦に決勝を行います (次項参照のこと)。
- 予選リーグ上位2選手で決勝 (7回戦) を行い、1位、2位を決定します。

ルール細則

引き分け勝ちの権利、石の色（先手が黒、後手が白）の決定

- 1 予選の場合は、対局者は指定された石の色で対局を行う。対局が32石対32石で終わった時は引き分けとする。
- 2 決勝戦の場合は、石の色は試合前の伏せ石により決定する。伏せ石は、対局者のうち、段級位の上位者（同位または不明の場合は年長者）が石を1個盤上に水平に置いて隠した上で、相手が「上が黒」または「上が白」と宣言する。正しく言い当てた場合には、次のいずれかの権利を選択できる。
 - ① 対局が32石対32石で終わった時の勝ちの権利。（これを「引き分け勝ち」と言い、「引き分け勝ち表示」を権利者の手元に置く。）
 - ② 石の色を選ぶ権利。当たらなかった場合には、伏せ石を行った者が①または②の選択権を得る。

座席・競技時間・対局時計・着手

- 3 原則としてすべての対局に対局時計を使用する。持ち時間は各20分持ちとする。持ち時間を使い果たした場合は1手30秒以内に着手しなければならない。30秒以内に着手が完了しなかった場合は時間切れ負けとする。ただし、試合開始時刻に遅刻した選手は持ち時間を使い果たした時点で時間切れ負けとする。
- 4 対局時計は指定された位置に置くものとする。また、座席は黒を持つ対局者が選択できる。
- 5 対局は、時計が静止した状態から、白を持つ対局者が自分のボタンを押すことにより開始となる。
- 6 自分が着手権を持つ時間帯をその対局者の「手番」という。手番中は常に自分の時計を作動させておかなければならない。また、手番中、対局者は次の4つの行動をこの順序に従ってのみ取ることができる。
 - ① 「直前の相手番に不正着手があった場合の指摘」

直前の相手番に不正着手があった場合は、自分の時計のボタンを押し、相手の手番に戻した上でその不正の内容を指摘し、相手に訂正させることができる。また、秒読み時に不正着手を行い、それを指摘された場合は、その不正着手について対局者双方の合意が得られた時点で時間切れ負け扱いとする。なお、不正着手とは、自分の打つ石色の間違い、手番の間違い、打てない箇所への着手、返し忘れ、返しすぎ、石のずれ、打てる箇所がある局面でのパスを指す。また、返し忘れ、返しすぎ、石のずれについて指摘する場合はどの石かまで指摘しなければならない。また、パスではないことについて指摘する場合は、打てる場所まで指摘しなければならない。

[不正着手に関して対局者双方の合意が得られない場合および指摘できない程度に大きい不正着手が行われた場合は時計を一旦止めて直ちに審判員を呼び審判員の指示に従わなければならない]
 - ② 「打てる箇所がない場合のパスの宣言」

打てる箇所がない場合は、パスを宣言し、自分の時計のボタンを押さなければならない。
 - ③ 「着手」

盤面の特定のマスに手または石で故意に触れた時点で、その着手が成立したものとみなされ、取り消し（いわゆる「待った」）は認められない。ただし、打てない箇所に触れた場合は、その着手は当然成立しない。
 - ④ 「石を返す」

着手によって挟んだ石をすべて返し、自分の時計のボタンを押して相手に手番を渡す。
- 7 1回の着手において、石を打ち、挟んだ石を返して時計のボタンを押す一連の動作は、原則として片手で行うものとする。
- 8 原則として、相手の手番中に盤面や時計などに触れてはいけない。また、対局中は、盤面や時計などに対する相手の視認等を妨げてはならない。
- 9 対局者は、着手を完了するたびに、自分の時計のボタンを押さなければならない。また、最終手であっても着手完了後に時計のボタンを押さなければならない。
- 10 最終手を打った側でない方の対局者は、最終手が不正着手であった場合は残り時間の多寡に関わらずそれを指摘できる。指摘方法は第5項①と同様の方式による。また、最終手が不正着手ではない場合、あるいは不正着手であった場合でも指摘しない場合は、すみやかに終局の宣言をしなければならない。なお、終局の挨拶や握手、時計を止めるなどの行為で終局の宣言の代替としてもよい。
- 11 対局中のトラブルにより審判員を呼ぶ際は、相手に断わった上で、時計を一旦止めること。

遅刻者の取り扱い

- 12 所定の対局時刻になっても対局者が現れない場合、先着者は後に選択する石の色に係わらず、座席の位置を選択し、審判の指示により自分の時計のボタンを押し、遅刻者の持ち時間を減らすものとする。
- 13 遅刻者が到着したときは時計を一旦止めて、残り時間を持ち時間として対局する。ただし、遅刻者は残り時間の多少にかかわらず、不戦敗(64石差)を選択できるものとする。不戦敗を選択した場合、試合結果はレーティングに算入しない。
- 14 遅刻者は、持ち時間を使い果たした時点で時間切れ負けとし、1手につき30秒の権利を失うものとする。

時間切れおよび秒読み中の不正着手の取り扱い

- 15 一方の対局者が終局前に時間切れとなり、もう一方の対局者の時間が残っていることが確認された場合は、時間切れしていない方の対局者の勝ちが決定する。時間切れは、相手の指摘または自己申告によって成立し、対局者以外の者はこれを指摘することができない。(ただし、双方が時間切れしている場合についてはこの限りでない。次項参照。)また、終局後であっても、最終手を打った側の対局者の時間切れに関しては、対局者双方が結果を確認し合意する前であれば、指摘または申告を行うことができる。
時間切れの指摘(または申告)の瞬間に、時間切れの対局者が着手途中(石を打ってから着手完了までの間)の場合は、その着手は有効とし、その完了を待ってから、勝者(時間切れしていない対局者)は下記①または②の選択を行う。
また、秒読み中の不正着手を指摘された場合は、着手を訂正した上で、時間切れ扱いとする。
 - ① 33石対31石の勝利
 - ② 自分の持ち時間を使って、好きなように相手・自分交互の手を打ち進める(これを「勝手打ち」と言う)。ただし、その過程で不正着手(第6項①参照)があった場合は、敗者が指摘することができる。また、勝者は、まだ打てる箇所があっても好きな所で打ち止め、その時点で盤上にある石数を試合結果とすることができる。勝手打ちの途中で持ち時間が切れた場合は、その時点(着手途中の場合は着手完了時点)での石数を試合結果とすることができる。
- 16 対局者双方が気付かぬうちに双方が時間切れしていた場合は、引き分けとする。また、決勝は引き分け勝ちの権利の保有者の勝利とする。ただし、この試合結果はレーティングには算入しない。

勝敗と石差の記録

- 17 終局時に空きマスが残った場合は、空きマスは勝者のものとする。ただし、勝手打ちで試合途中の石数を使用する場合は、空きマスは敗者のものとする。また、引き分けの場合は32石対32石とする。
- 18 対戦カードは、終局後、双方の石数を記入し、両対局者が記入内容を確認、署名をした上で、勝者が提出しなければならない。なお、記入の間違いが提出後になって発覚しても、訂正は原則として認めない。また、両対局者の合計石数が64石にならない場合は、原則として勝者が不利になるように扱う。

障害者特別ルール

- 19 身体にハンディキャップのある選手のために本ルールの例外を設けることがある。その際、競技場所、補助者の容認などは審判員の指示に従うものとする。

審判員の権限と責務

- 20 審判員は本ルールに規定なき事態の処置の決定権を持つ。また、選手から裁量を求められたときの決定権を持つ。
- 21 審判員は、不正を行った対局者に罰則として持ち時間減や反則負けを宣告できる。また、円滑で公正な大会運営を妨げる人物に注意、警告を与え、退場を命じることができる。
- 22 審判員の最終決定は何よりも優先される。
- 23 審判員は、当事者間及び他の参加者との間に、著しい不均衡を生じさせないとともに、大会全体の進行にも配慮して判定を行わなければならない。

その他禁止事項およびマナー等

- 24 選手・見学者を問わず、対局中の選手に対する助言は禁止する。
- 25 石の片付けは、記録が終了してから行うこと。
- 26 選手は円滑な競技の運営に協力し、試合終了後はすみやかに記録用紙を提出すること。
- 27 選手は、自分以外の特定の選手の上位進出を手伝う、あるいは阻む目的で、故意に負けたり、相手に石数を稼がせたりする行為は慎むこと。
- 28 時計の不備に気付いた場合は直ちに審判員に申告するものとし、故意に無視してはならない。時計の修正・変更は審判員の判定に従うものとする。
- 29 大会中、会場内ではスマートフォン等の電源を切っておくこと。
- 30 試合中の写真、ビデオ等の撮影に当たっては、事前に審判員及び当事者の了解を得ること。また、フラッシュ、ストロボ等を発光させないこと。